

しか、貞元五年(七百八十九年)吐魯番の陥るゝ所と爲れり。當地回鶻人種多きに依り、茲に至つて又回鶻と呼び、宋の建隆三年(九百六十二年)入朝し、元の太祖四年(千九百九年)には遠征して之を平定したり、明の成化二年(千四百六十六年)會長阿里、哈密を陥れしも、其後百餘年邊患を爲さずと。

### 七 天山第一回の超越

吐魯番滞在二日間、二十日午後零時三十分出發、西行三里弱、雅爾河ヤールを渡る。河幅約百七十乃至二百米突、兩岸絶壁を成し、水幅僅々三若くは六米突あり、橋なきも徒渉し得べく、沿岸楊柳、梧桐多し。是より頗る緩なる上坡と爲り、行進方向は次第に北に偏す。又行三里、一乾溝あり、幅約百五十米突を有す、次で根特克溝クントクを越え、行程約八里根特克に入る。根特克溝は幅約八十或は百七十米突、水幅漸く一、二米突而も甚だ淺し。地形は北方遙に天山支脈の東西に走るを見、南は吐魯番の西南三里の地點より起る一砂山の西走するに對し、其中間沙磧の一大平原を成せり。途上纏頭女子纏頭女子の上衣色青の胸部に、幅一寸餘の金線四條を施せるを認む。遠く之を見れば宛然參謀武官の飾緒の如し。就て之を聞くも要領を得ず。唯々南路の女子皆